

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 5 年 4 月～ 6 月実 績

令和 5 年 7 月～ 9 月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数

165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数

165企業（回答率100％）
6. 調査対象期間

令和5年4～6月期実績及び令和5年7～9月期見通し
7. 調査時点

令和5年6月1日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（％）
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

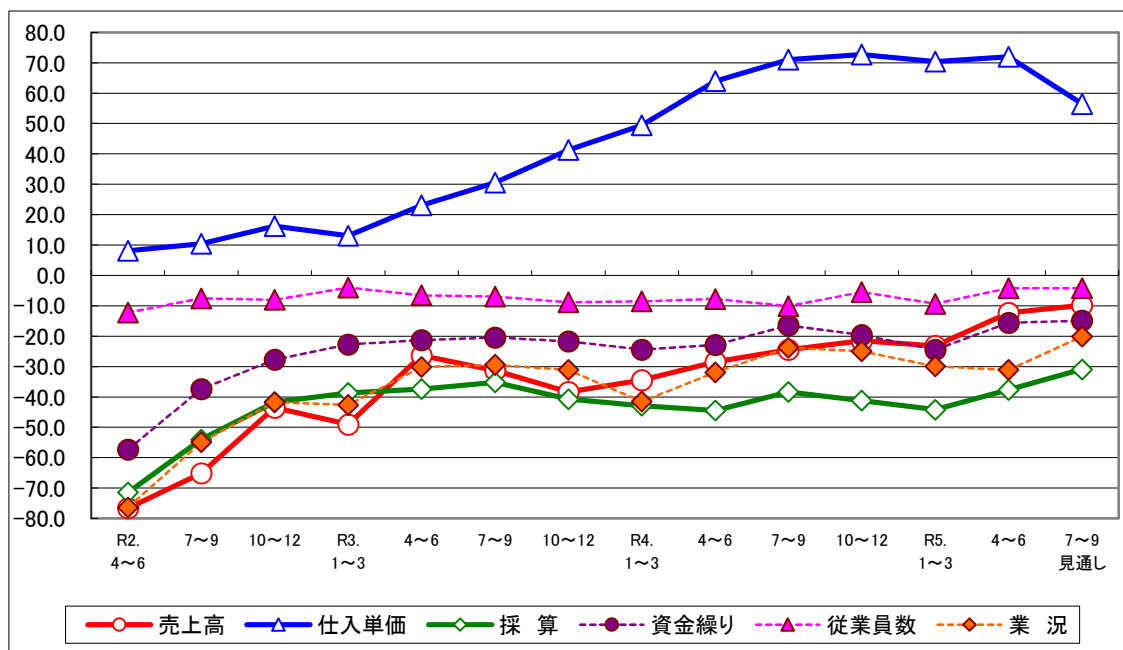
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保 勝 氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

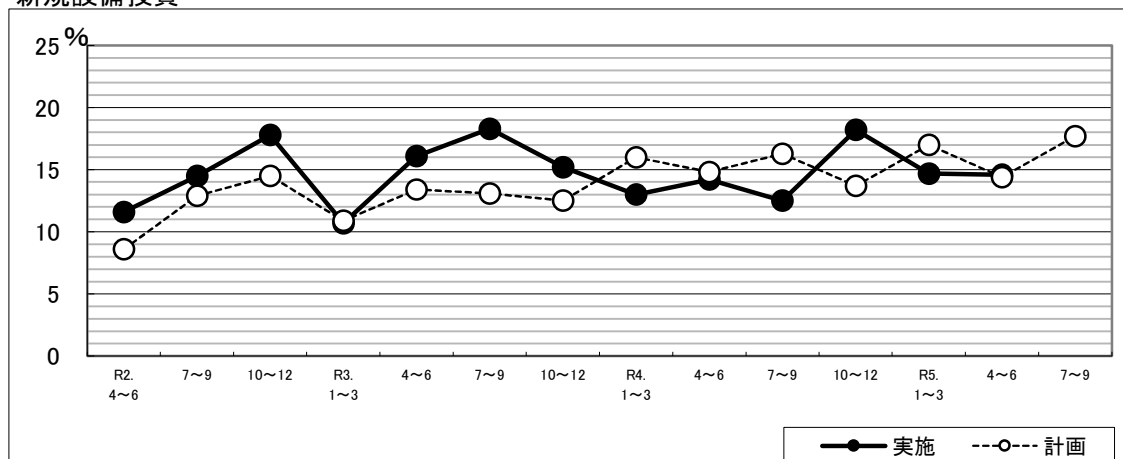
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R2.4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9見通し	▲ 9.8	56.5	▲ 30.9	▲ 14.9	▲ 4.2	▲ 20.1

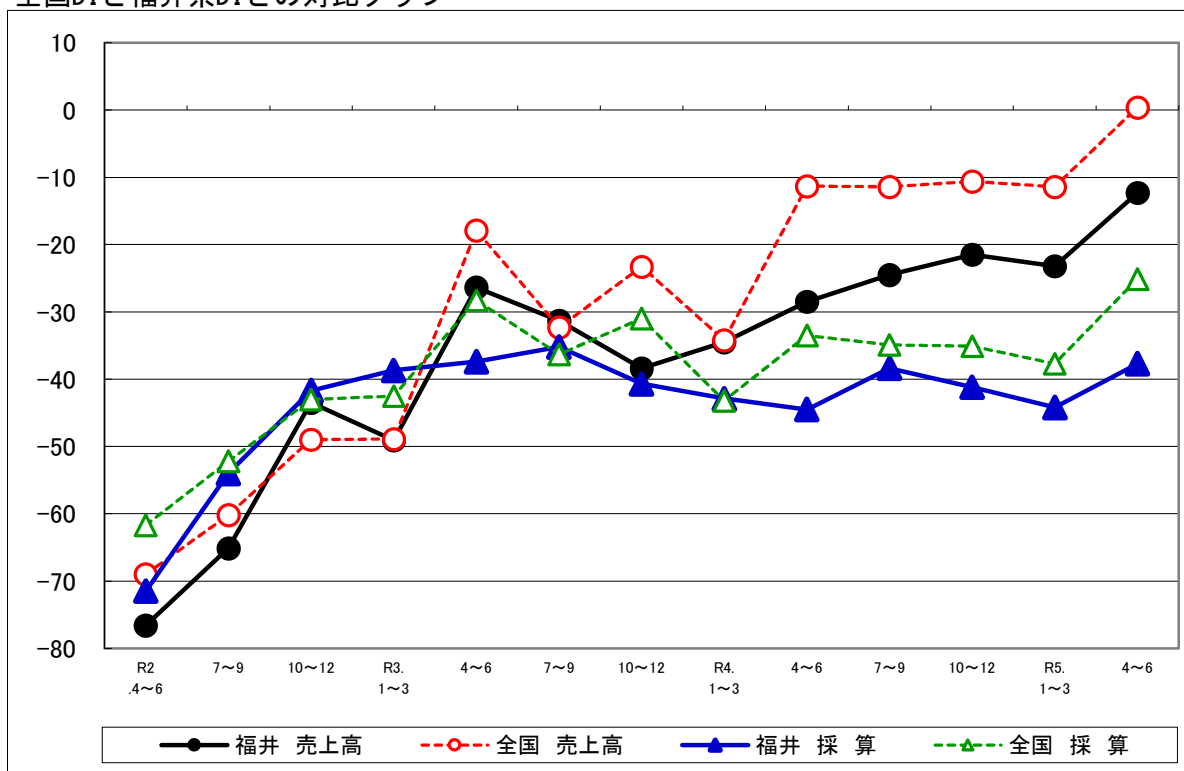
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R5年4－6月期の福井県経済を概観すると、企業部門では、繊維やメガネ枠などの地場産業が持ち直しているものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン需要を中心に弱含んでいるほか、輸送機械、非鉄金属、化学なども足踏みの状態にある。家計部門では、個人消費でドラッグストア販売が順調に推移、コンビニエンスストアも堅調を持続。百貨店・スーパー販売も緩やかに持ち直しているほか、温泉地や観光地、飲食サービスで持ち直しの動きがみられ、全体では緩やかに持ち直している。今後は、個人消費中心に持ち直しの動きが強まると予想するが、世界的な金融引締めが続く中、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっていることや、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響には十分注意する必要がある。

こうした状況下、今期（R5年4－6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目が改善、2項目で悪化となった。項目ごとのDI値をみると、改善した項目が、売上高の前期▲23.2→今期▲12.3、採算の前期▲44.2→今期▲37.7、資金繰りの前期▲24.5→今期▲15.6、従業員数の前期▲9.3→今期▲4.2、悪化した項目が、仕入単価（逆指数）の前期70.4→今期72.0、業況の前期▲29.9→▲31.1となっている。先行き（R5年7－9月期）については、従業員数の横ばいを除く5項目で改善予測が立てられている。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも全国および福井県ともに改善傾向となっているが、概ね水面下の動きであることに留意する必要がある。

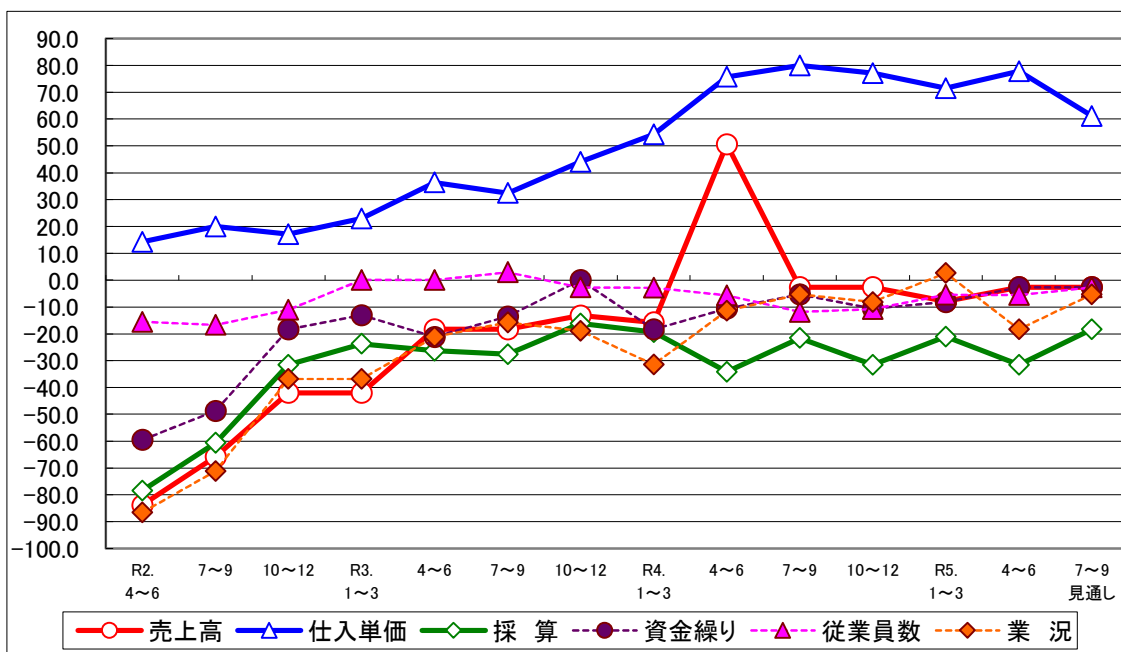
そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画した企業14.4%に対し実施した企業14.6%と、ほぼ計画通り実施されている。先行き（R5年7－9月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が17.7%となり、幾分、投資マインドの改善が見込まれる。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

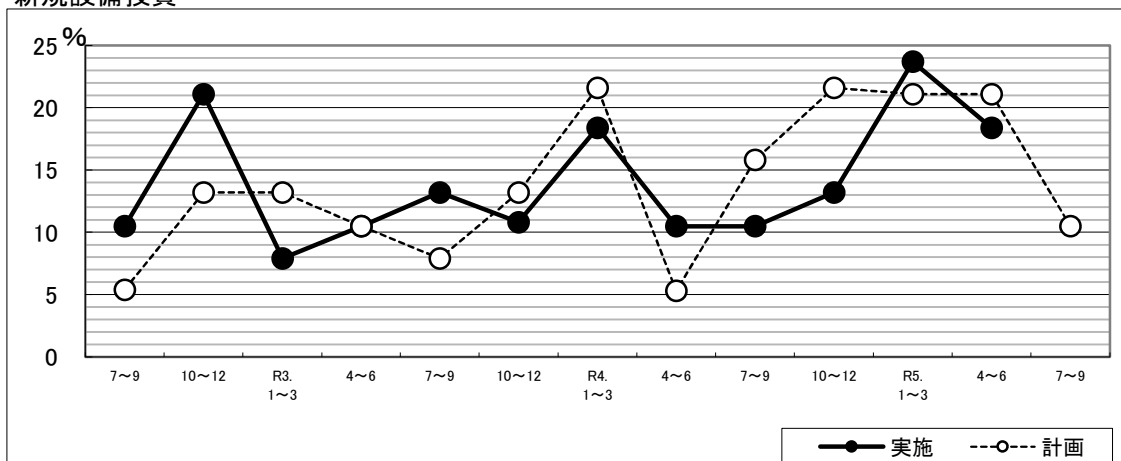
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R2.4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	50.6	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9見通し	▲ 2.6	61.1	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 2.8	▲ 5.3

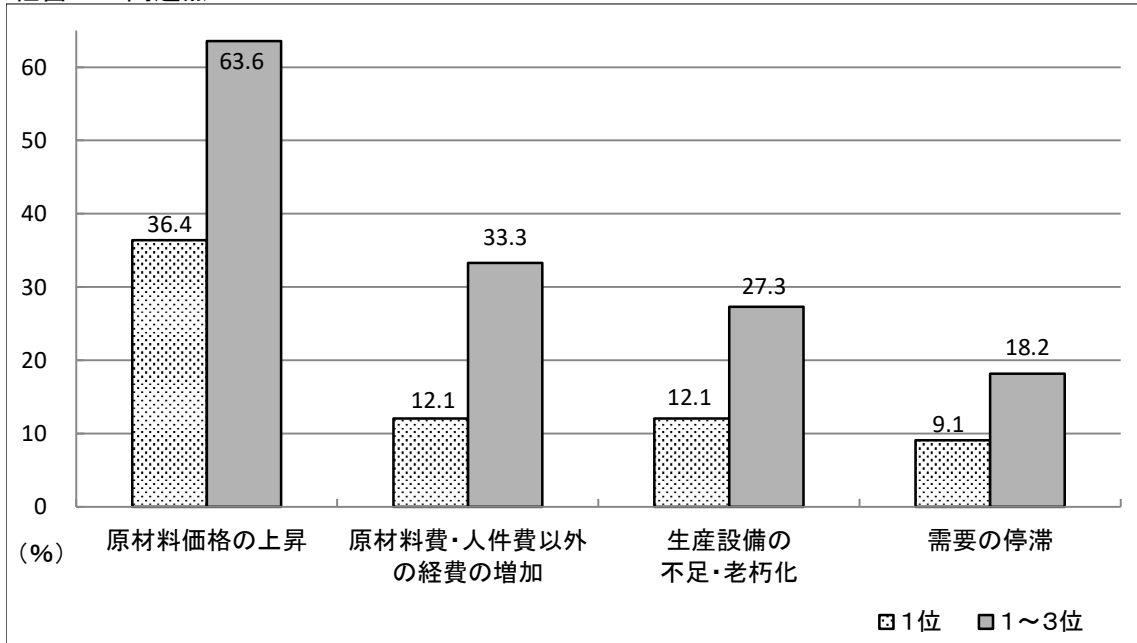
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・来期に原材料の値上げが予定されており製品価格に反映させる為の交渉が必要になるが、毎年のような要請で客離れにならないか心配である。
- ・既存の顧客が戻りつつあり引き合いも活発になってきた。しかしまだまだ量産には繋がらず売上増加には至っていない。昨年同期は単発の量産があったため今期は減少傾向であるがコロナ以前より少々悪化した業況と判断。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では、繊維工業が衣料、非衣料ともに持ち直しているほか、眼鏡枠も円安などの影響を受け堅調さを取り戻している。しかし、主力の電子部品・デバイスではスマートフォン需要の停滞から弱含んでいるほか、化学が住宅需要の伸び悩みなどから精彩を欠く展開が続いているほか、輸送機械、非鉄金属（アルミ圧延製品）なども弱含んでいる。また、生産用機械も、半導体製造装置が拡大の動きに一服感がみられるなど、総じてみれば、本県製造業は足踏みの状況にある。

こうした状況下、今期（R5年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中2項目のみが改善、残る4項目は悪化傾向を示し、厳しい経営環境を実感する形となっている。各項目の状況をみると、売上高が前期▲7.9→今期▲2.6と改善、資金繰りも前期▲8.1→▲2.7へと改善した。その他の項目は、仕入単価（逆指数）が前期71.4→今期77.8へ、採算が前期▲21.0→今期▲31.6へ、従業員数が前期▲5.5→▲5.6へ、業況が2.6→▲18.4へと悪化している。先行き（R5年7～9月期）については、2項目で悪化予測、2項目で改善予測、2項目で横ばい予測となり、幾分ながら持ち直すことが期待される。

一方、新規設備投資の状況については、計画の21.1%に対し実施が18.4%と、実施が計画を下回った。先行き（R5年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が10.5%にとどまり、低調な投資状況が続くとみるべきであろう。

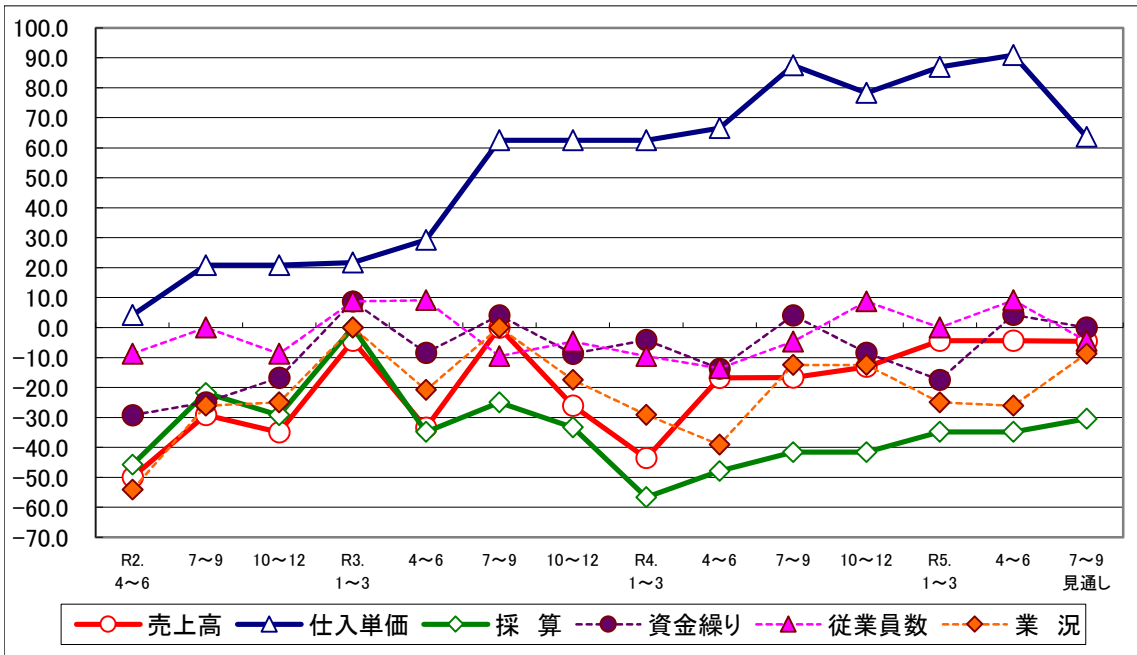
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く36.4%（1位～3位までに挙げた企業63.6%）を占めた。個別の見解としては、「来期に原材料の値上げが予定されており製品価格に反映する必要があるが、客離れにならないか心配」、「まだまだ量産には繋がらず売上増加には至っていない」などの悲観的な声が散見された。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

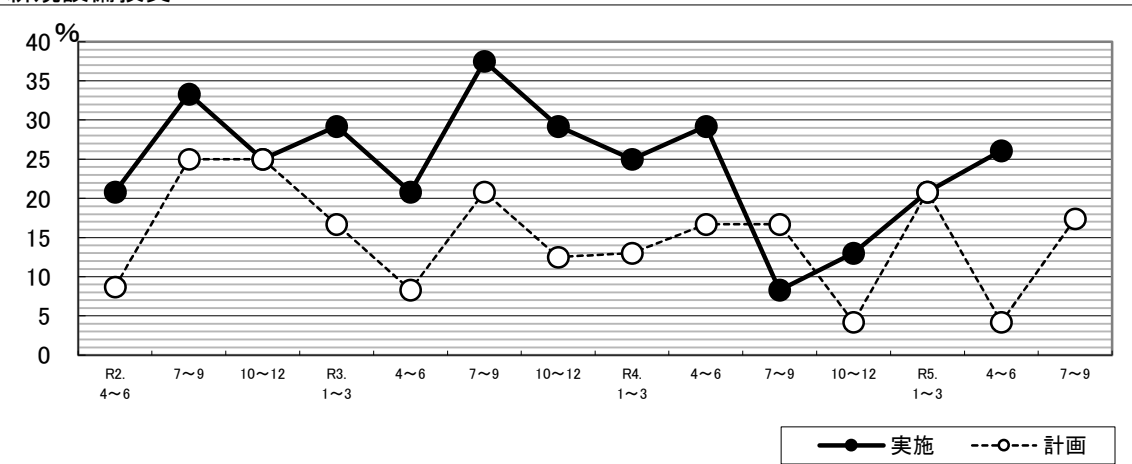
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R2.4～6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7～9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10～12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1～3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4～6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7～9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10～12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1～3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4～6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7～9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10～12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1～3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4～6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7～9見通し	▲ 4.6	63.6	▲ 30.4	0.0	▲ 4.5	▲ 8.7

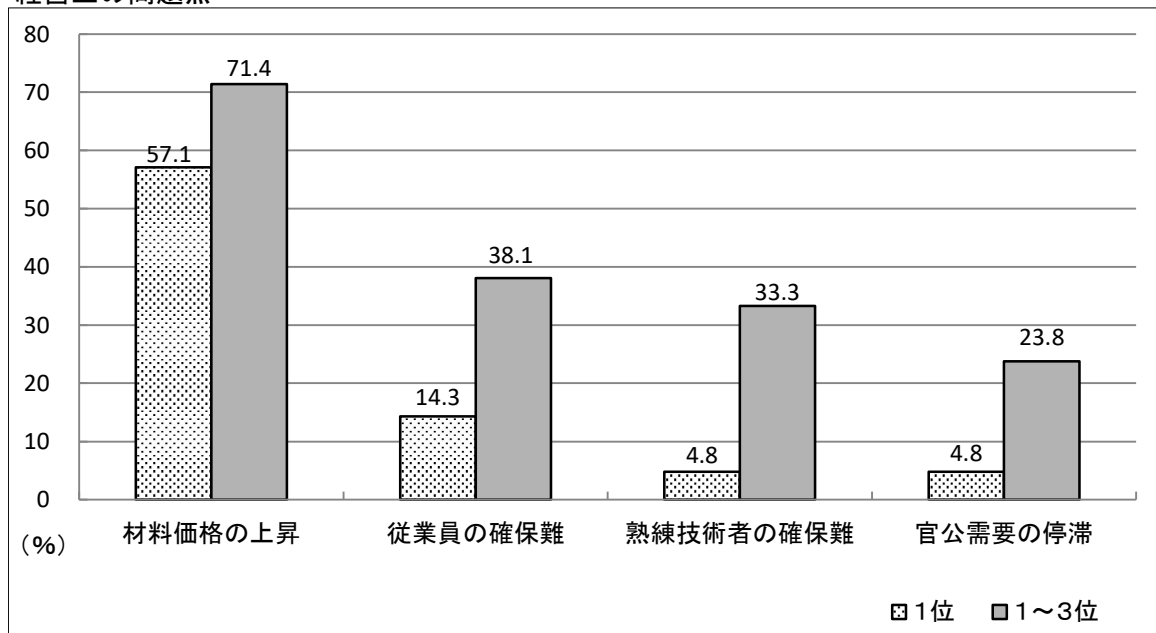
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・公共工事はそこそこ出ているが、いろんな単価の上昇に請負価格が追いついていないところがあり、負担になっている。
 ・建築工事会社の受注難からの低価格受注が多くみられ、下請けの設備会社として大きく影響を受けている。資材や人件費の上昇を発注者、受注者ともしっかりと反映した請負契約となると良い。

建設業の景況

福井県内におけるR5年度（R5年4～6月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で618億33百万円の前年同期比3.6%の増加、発注件数は同943件の同9.7%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、福井県関連工事が164億51百万円の前年同期比8.7%減となったほか、独立行政法人等関連工事も121億12百万円の同29.3%減となるなど、前期実績を割り込んでいる。一方、住宅投資については、R5年4～5月の累計で、前年同期比7.8%増の773戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比7.4%減の401戸、貸家が同51.3%増の301戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が2項目、横ばいと悪化がそれぞれ2項目と、やや精彩を欠く結果となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲4.4→今期▲4.4、仕入単価（逆指数）が前期87.0→今期90.9、採算が前期▲34.8→今期▲34.8、資金繰りが前期▲17.4→今期4.3、従業員数が前期0.0→今期9.1、業況が前期▲25.0→今期▲26.1となっている。また、先行き（R5年7～9月期）については、改善予想が3項目、悪化予想が3項目と分かれており、景況感は依然として厳しい状況が続くものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業4.2%に対し実施した企業が26.2%と順調に推移。また、先行き（R5年7～9月期）についても、投資計画を持つ企業が17.4%あり、まずまずの投資実績が期待できる。

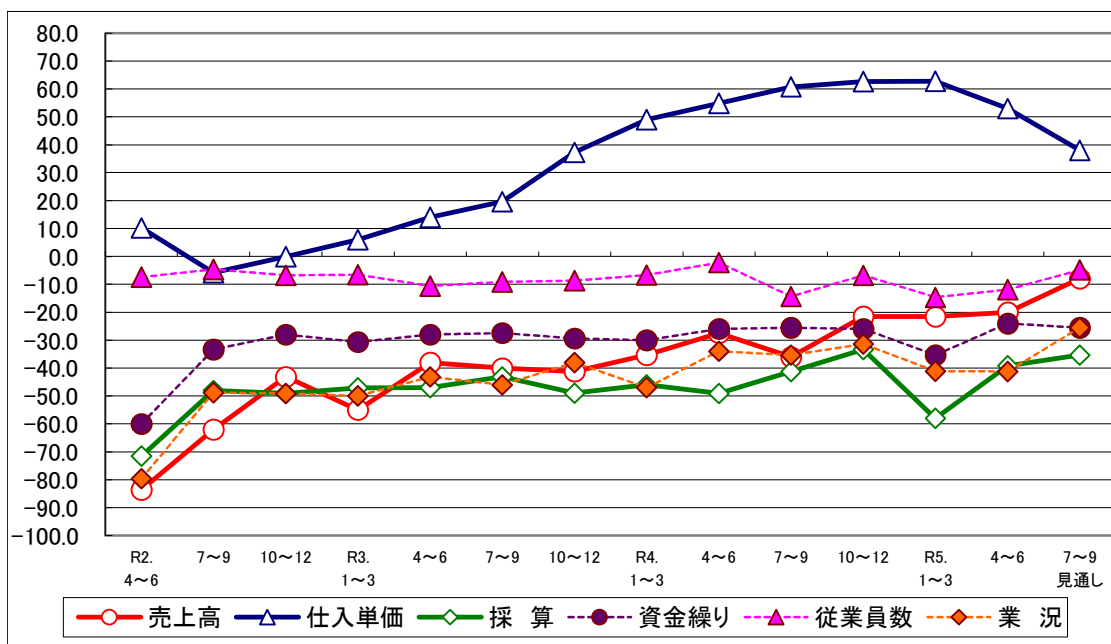
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く57.1%（1位～3位に挙げた企業71.4%）を占めた。次いで、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が続いている。個別の見解としては、「いろんな単価の上昇に請負価格が追いついていない」、「建築工事会社の受注難から低価格の受注が多くみられる」などの声が目立った。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

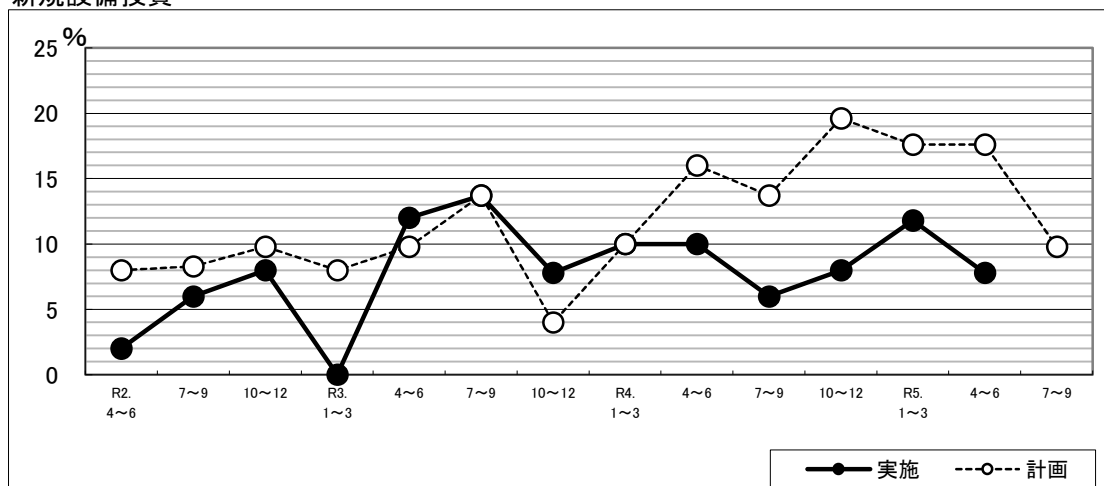
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R2.4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9見通し	▲ 7.9	38.0	▲ 35.3	▲ 25.5	▲ 4.8	▲ 25.5

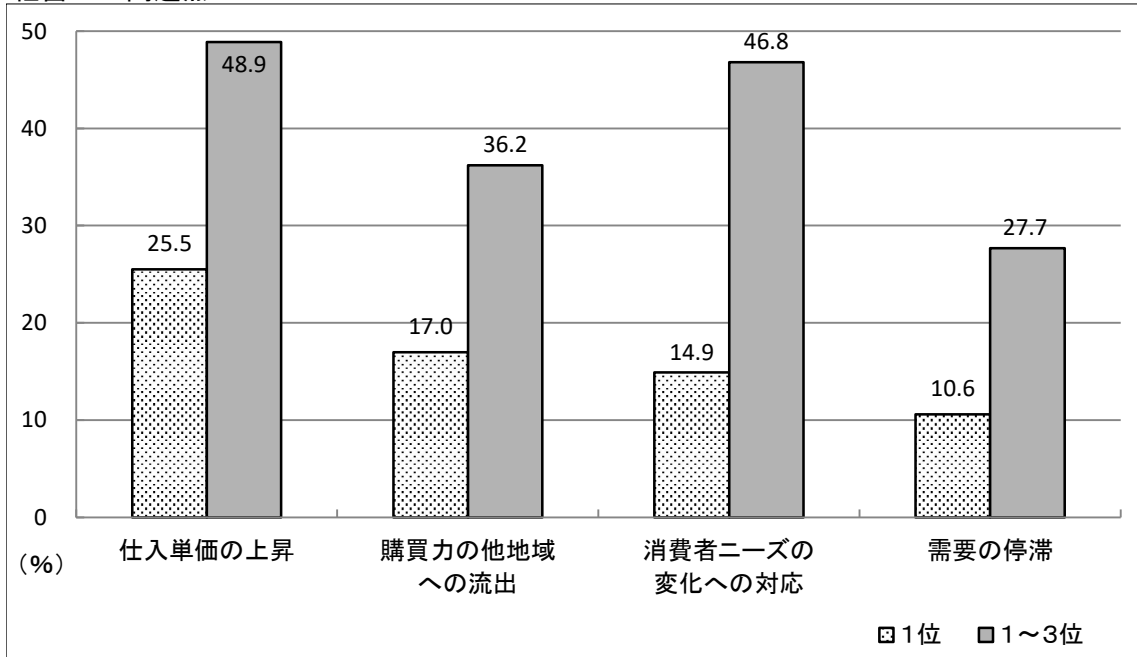
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナが収束状況となったが、需要の回復には至っていない。特に60歳以上の高齢者の消費の回復が鈍い。
- ・売上は増加しているが、経費の負担が大きい。人件費、電気代が大きく増加している。収支はトントンである。
- ・コロナウイルスによる行動規制が緩和され、有名な観光地では多くの人が戻って来ているが、自分の商売には反映がピンとこない。今後に期待。

小売業の景況

最近の小売商況（R5年4～6月期）を概観すると、ホームセンター、家電量販店などが弱含んでいるものの、百貨店・スーパー販売で衣料品等に動きがみられることから持ち直している。また、ドラッグストア販売が順調に推移、コンビニエンスストア販売も堅調を持続するなど、県内小売商況は概ね堅調に推移している。ただ、近畿経済産業局が公表するR5年4月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（確報値）は、家具を除き、衣料品、身の回り品、飲食料品などが軒並み前年割れとなったことから、前年同月比1.5%減（全国5.9%増）の66億13百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査を見ると、景況感を示すDI値6項目のうち5項目で改善傾向を示しており、堅調な小売商況を裏付ける結果となった。項目別の状況をみると、売上高が前期▲21.6→今期20.0、仕入単価（逆指数）が前期52.8→今期53.0、採算が前期▲58.0→今期▲39.2、資金繰りが前期▲35.3→今期▲24.0、従業員数が前期▲14.6→▲11.9、業況が前期▲41.1→今期▲41.2となっている。先行き（R5年7～9月期）についても、5項目で改善予想が建てられている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の17.6%に対し実施が7.8%と低調な推移となった。先行き（R5年7～9月期）については、何らかの投資を計画する企業ウェイトが9.8%となり、引き続き投資マインドの足踏みが予想される。

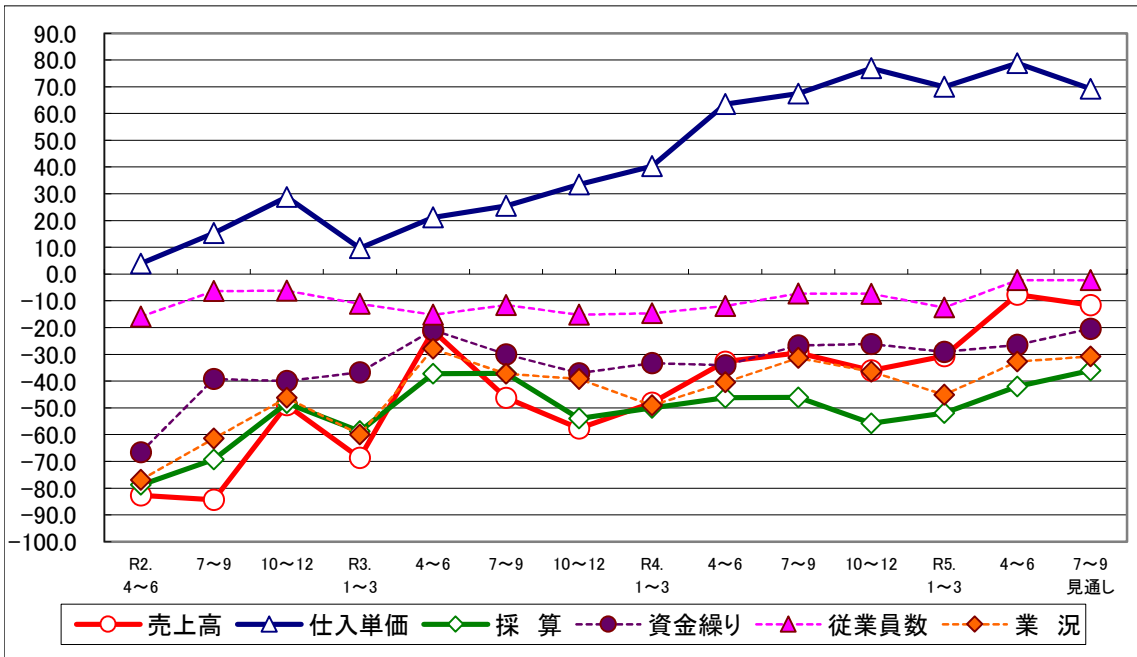
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウェイト25.5%、1位～3位までに挙げた企業48.5%となった。個別の見解としては、「コロナが収束状況となったが、需要の回復には至っていない」、「売上は増加しているが、経費の負担が大きい」など、悲観的な見方が目立っている。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

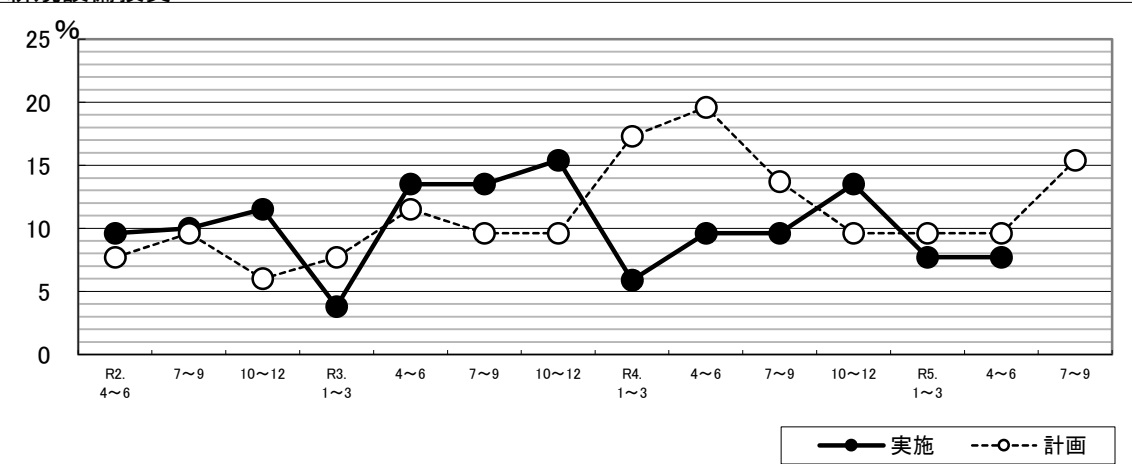
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R2.4～6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7～9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10～12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1～3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4～6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7～9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10～12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1～3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4～6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7～9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10～12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1～3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4～6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7～9見通し	▲ 11.6	69.2	▲ 36.0	▲ 20.4	▲ 2.3	▲ 30.8

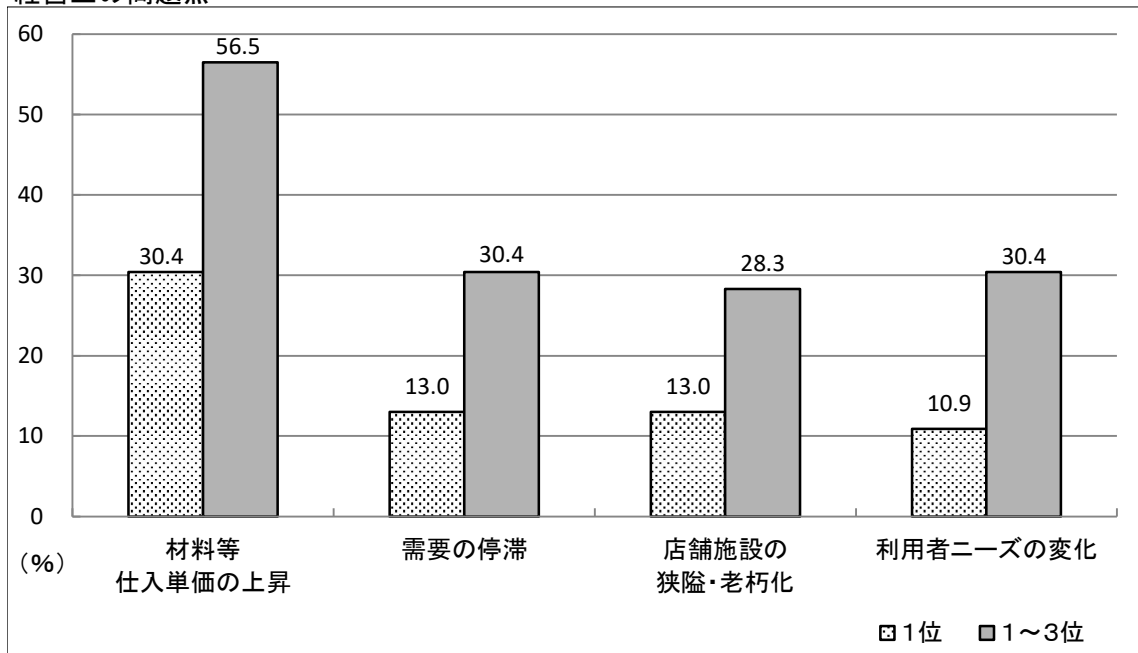
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・物価高騰、特に電気料金の値上げが家計を脅かしていて、顧客の利用期間があき売上に影響してきていると考えられる。

・コロナの影響から飲食がいろいろ制限されている事が、普通になってきているように思う。利用者の高齢化、材料の上昇、後継者がいない事も響いていると思う。

・仕入の費用が上がっているため、当店の価格も上げざるを得ない。しかし、上げれば客は嫌がるため、何か付加価値をつけないといけない。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R5年5月、季節調整値）をみると、指数値102.0、前月比1.2%と2か月ぶりの上昇となった。同月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことなどを受けて、個人向けサービス活動を中心に正常化しつつあることを裏付けている。同月の業種別動向をみると、大分類業種の内訳では、11業種中、生活娯楽関連サービス、衣料・福祉、金融業・保険業、小売業など6業種が上昇、運輸業、郵便業、情報通信業の3業種が低下、物品賃貸業（自動車賃貸業を含む）など2業種が横ばいとなっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中5項目が改善傾向を示し、同業界の堅調な回復ぶりを裏付けている。項目別の指数は、売上高が前期▲30.7→今期▲7.7、仕入単価（逆指数）が前期70.0→今期78.8、採算が前期▲51.9→今期▲42.0、資金繰りが前期▲29.1→今期▲26.5、従業員数が前期▲12.5→今期▲2.3、業況が前期▲45.1→今期▲32.7となっている。また、先行き（R5年7～9月期）についても、5項目で改善予測が立てられており、経営環境のさらなる改善が期待される。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が7.7%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R5年7～9月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが15.4%あり、投資マインドの改善が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト30.4%、1位～3位までに挙げた企業56.5%）への指摘が最も多かった。個別の見解としては、「利用者の高齢化」、「材料価格の上昇」、「後継者難」など、厳しい経営環境を訴える声が目立っている。

全国・福井景気動向 令和5年4月～6月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	0.4	75.9	▲ 25.1	▲ 11.9	▲ 3.9	▲ 12.8
	製造業						
	DI値	▲ 1.5	78.9	▲ 20.3	▲ 11.6	▲ 2.8	▲ 11.3
	建設業						
	DI値	▲ 12.6	81.0	▲ 25.8	▲ 7.0	▲ 8.0	▲ 13.7
	小売業						
	DI値	▲ 10.5	69.2	▲ 32.6	▲ 19.5	▲ 2.8	▲ 24.4
	サービス業						
	DI値	14.5	74.6	▲ 21.8	▲ 8.5	▲ 2.0	▲ 1.7
福井	全体						
	DI値	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
	製造業						
	DI値	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
	建設業						
	DI値	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
	小売業						
	DI値	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
	サービス業						
	DI値	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。